

お鍬山 植物たより (H25. 9. 10)

9月にはいってだいぶ過ごしやすくなってきました。散歩にはもってこいの季節です。お鍬山の遊歩道は相変わらず雑草が繁茂しています。特にひつつき虫といわれるイノコヅチ・ササクサ・チヂミザサなどが衣服につくようになってきて大変ですが、[コナラ](#)や[アベマキ](#)などの大木の下を風などで落ちた成熟まえの青々とした大小のドングリを見ながらの散策も快適です。

遊歩道から離れて、西山橋西交差点の近く、堰堤下の駐車場の樹木や野草を眺めるのも楽しいものです。周辺の樹木では[クリ](#)の実や[ニワウルシ](#)の翼果を見る事ができますが、まさにウドの大木が淡緑色の花を咲かせています。また、白色の小花を一杯付けた[タラノキ](#)（メダラ?）もひととき目立ちます。山菜としてのタラノキの若芽



駐車場全景

は知っているも花を見る機会は少ないのではないのでしょうか。樹木の中を少しばかり分け入ると、[ヌルデ](#)の葉軸



ウドの花



タラノキの花

に奇妙なかたちをした五倍子（ごばいし）を見ることができます。五倍子とはヌルデの葉軸の翼にアブラムシ科のヌルデノフシムシが寄生した虫こぶで、薬用等の原料として利用されているようです。（虫こぶ：植物体に昆虫が産卵・寄生したため異常発育した部分。）野草では、ヤハズソウが群落しているように生えている中で、マルバルコウソウの朱赤色の花がアクセントのように咲いています。



ヌルデの虫こぶ